

友情の架け橋～情操教育を通して～

高橋由美

(平成 20 年度 1 次隊 小学校教諭 ベリーズ)

みなさんこんにちは。私千葉県の大網白里町小学校教員をしている高橋由美と申します。派遣はベリーズという国で小学校教諭として派遣されていました。

ところで皆さんベリーズという国がどこにあるかご存知ですか。正直に教えてください。知っているという方すごい！有村さんは知っていますよね。ほとんどの方が知らないかと思うんですけど、実は私も合格通知をいただいてから「ベリーズ？アフリカ？」って思ってアフリカをまず先に探しました。でアフリカにない、どこということインターネットでベリーズで検索したら一番始めに出てくるのはベリーズ工房でした。アイドルの名前でした。結局ベリーズは見つけれなくて、よくみると中米のメキシコの近くにある国です。ではまずベリーズがいったいどんな国なのかということで皆さんにご紹介したいと思います。

まず国旗、実はこれすごくレアで世界の中で唯一国旗の中に人が入っています。これも売りにしています。これがメキシコのちょうど下の、縦長でだいたい四国ぐらいの大きさの小さな国です。

1981年にイギリスから独立をしまして、それまでは英領ホンジュラスって言う国でした。中米はスペイン語圏なんですけども、なぜかベリーズだけイギリスに統治されていたので英語でした。私はスペイン語を勉強できるのかなと思って楽しみにしていたら英語で、よかったですけど、すごく不思議な感じで、生活はスペイン語、学校は英語という変な環境で2年間過ごしてきました。頭の中はパニックです。学校は英語、家に帰るとスペイン語っていう2つ、みんないいじゃんっていうんですけど私は英語で精一杯でした。

人口は約31万人ということでこれは未登録の人もいるらしく、本当の数はよくわかってないそうです。

首都はエルボパンといいまして、ここ世界一牧歌的な首都といわれていまして何にもないです。ここ首都なの？というところで、ここ実はハリケーンがきて本当の首都は海沿いにあったんですけども、それを山側に移したということで本当に何もないような首都です。ぜひ一度行ってみてください。いや行かないと思います。

他民族国家ということでいろいろな人種、メスチソ、クレオールコ、黒人系ですね、マヤの人たち、あとはアリグラという民族、あとは中国人とかメローネというドイツ人系の変わった方々も住んでいました。

みなさんこれ最近みたことないですか？世界の果てまで行って Q で最近ベリーズが特集されていたりするんですが、なんと世界第2位の珊瑚礁がベリーズにはありまして、これ

ブルーオールといいます。最近これが売りで、ダイバーにはすごく魅力のダイビングスポットだそうです。ちなみに一位はオーストラリアのグレートバリアリーフ、その次がベリーズなんです、実は。

これはマヤナ遺跡ですね。マヤナ遺跡という遺跡があります。こんなすてきなカリブ海で私は2年間活動してきました。

実際どんな活動をしてきたかといいますと、私が配属された小学校は複式学級で、日本という幼稚園生から高校生、中学生くらいまでの4歳から15歳までで80人しかいない小さな小学校、これ全校生徒です。この中に私もいるんですけど、あまりに同化しすぎてわからないかな。小さな小学校でやってきました。

スタッフは6人で女校長が25歳ということですのでごく実はやりやすかったです。どうかというと、初めての校長先生ということで私わからないという中で一緒に、私は実はちょっと年がいていて、じゃあ一緒に考えようということで、環境にはすごく恵まれていたなと思います。

あと本当の要請は算数とコンピュータという風に伺っていたんですけども、なぜか行ってみたら「ユミは先生やっていたんだよね、日本で。じゃあ体育と音楽と図工よろしく」って。まあやってはいたけど何の準備もなく行ったので、何にもそんなの持ってきてないんですけどというのが最初のスタートでした。でもあちらの先生方も算数はずっとやってきているし、実は教科としてなかったんですね、体育＝「ピー、遊んでおいで、カンカンカンおしまーい」っていうのが現実でした。音楽と図工も名前だけで音楽は毎朝歌を歌うだけ、図工もやったりやらなかったりまあほとんどやっていませんでした。ということでぜひ勉強したいということで担当しました。

あとは空いている時間に学校保険、この報告会、実は私たちのときには4月の駒ヶ根の訓練所に入る2日前にあったんですね。そのときの講師の方が冊子をくださって、こういう風に学校保険やってみるといいですよってことで、本当に2日前なんですけどなるほどじゃあやってみようかなと思ってテキストを持っていきました。やっぱり行ったところは学校保険が本当に行われていなかったの、そこにちょっと力を入れようと2年間がんばってみました。

あとは購買のおばちゃん。実は1年目これをやっているときに、私何しにきているんだろうって正直思っていました。お金を数えて子供たちが時間になると「ユミおかし出して、売って」と。小さな小学校なのでほかの先生に本当は担当が決まっているんですけど、もうユミ＝購買のおばちゃん、早くおかし出してということで、何かというと外国、中米、たぶん他の国もあると思うんですけど、業間休みにお菓子を売ります。でお腹がすいている子はお菓子を食べてそれでちょっと腹ごしらえをしてからあとの授業に臨むんですけど、それが学校の収益につながっていて、お菓子を買うことによって紙を買うとかインクを買ったりとかそういうことにつながっています。日本じゃ考えられないんですけど、外国で

はこの時間をすごく楽しみにしていますし、学校側にしても利益になっていてよかったようです。

体育 PE、主な活動内容は、1年目は私が授業をやっていました。やったことないからやってみせてよということやらせてもらったんですけど、正直1年間は現地の先生は一切きてくれませんでした。日本でいう空きコマができたという感じですね、ユミがやってくれている間に丸付けしようとか。見てほしいんだけどな授業を、と思ったんですけど自分自身語学が精一杯だったのと、何をやっていいのかわからないどうしようって思っていたのがあって、ちょっと呼んでこういう風にやったらいいよねっていう話まではじめの半年ぐらいはいきませんでした。

でも1年目のときにこれはまずいな、私帰るしと思ひまして、2年目からは現地教員の授業サポート、やはり語学がどうしてもできなかったので、現地の先生について私の代わりにしゃべってくれませんか、こういうこといいんだけど、っていうと大人同士は私の英語がわかるんです、何をいいたいかは何となく。子供はやはり私のいいたいことがよくわからなくて、まず大人にいったから先生に子供にいったらう。2年目は子供も私の英語がだんだんわかってきて、何となくこういうことっているんだらうなってことを理解してくれるようになりました。でもこれが功を奏しまして授業にきてくださって、実際に自分が授業をやってくれるようになったんですね。

あちらの先生方は本当に働くことが面倒くさいとかそういう気持ちが強いので、日陰でみるとか体操着に着替えないとか、本当に体育は全くやりたくない、南国で暑いので気持ちもわかるんですけども、とにかく体育はやりたくないというのが正直な気持ちです。そんな先生方でワークショップ、体育隊員が結構いましたのでこういうふうにと体育面白くできるよって紹介したり、先輩隊員が PE ハンドブックという体育の教科書を一から作っていました。それを全部印刷したものを、自分の小学校や近隣の小学校にこういう風に使うといいよねって紹介もしました。

あとは体力テスト、これは私が行ってから一緒にやったんですけども、実際自分もすごく興味がありまして、やはりカリブ海の人たちだから身体能力がすごく高いんじゃないって思って、日本と比べてみたかったんでね。実際1年目やってみたんですけど、反復横跳びとかやったことがないので動けないんですよ。まず反復横跳びを教えるだけで1時間、こういう風にえっどうやって動くの？という感じで、日本の子供なんか5年生くらいならずっとやってきているのですぐ数値とかとれるんですけど、どんな大人の子でも最初から反復横跳びを教えなきゃいけなかったっていうんで、体力テストを実施するのに3ヶ月かかりました。毎週体育1時間でやっと終わったのが3ヶ月後くらいでした。ハンドボール投げなどをやった結果、どうやら日本の子供の方が体力はあるなというのを感じました。というより子供たちが本気を出していないというのもあったかもしれないんですけど、ちょっと面白かったです。

成果としては現地教員が授業を教えられるようになったというのと、子供が体育が教科だこの2年間で感じてくれるようになりました。昔は体育＝遊びの時間だったんです。これが今になっては体育だからちゃんと整列。実は前ならえがいいかどうかというのは自分には疑問なんです。行ったときは前ならえさせていたんですけど、前ならえができません。で出席を、身長順に並ぶとかそういうことが全くないので集合っていうとぐちゃって集まってしまって。ここの体系作りやるので一年かかりましたね。「なんで背の順に並ぶの？早く来た順に並ぶのでいいに決まってるじゃん」、「でも前の子が見えなくなっちゃうし」とか説明してやっところこういう風に並ぶようになって、あと体操服、運動して大汗をかくので、頼むからTシャツと短パンを持ってきてっていても、見ていただくとわかるように制服であったり運動靴であったりヒールのあるサンダルを履いてきたり、やっところ1年かけて体育っていうのが体育の運動服を着てやるものなんだなっていうところまで行きました。準備運動、準備運動もやってなかったの、子供たちで体育委員をつかって準備運動したりとかしました。

PEハンドブックっていうのが日本でいう文部科学省に認められて、小さい国ですけど全員の先生に手渡すようにということでJICAと一緒に資金援助をしながらやりました。授業や体力テスト、これ課題ですね。実際私が帰ったあとにやるの？ってちょっと心配です。今こっそり見に行きたいですけど、「やるよ、ユミありがとう、いろいろ教わったからがんばるね」っていったけれども。あと体力テストも2年間だけやって、比較をとったんですが握力計がベリーズで1台しかないとか、そういう関係上ちょっと厳しいのかなって思っています。じつはベリーズは体育に力を入れていまして、体育隊員はすごくいたんですけども、その体育隊員が一気に帰ってしまったことにより、ここまで一生懸命やってきたものが次に引き継がれるのかなっていう心配があります。

ほかに音楽ですね。これ実は大学の先生がおっしゃっていた物がない、体育はそれでもボールとか結構あるんですよ、売っているんです。リコーダーは手に入ったんですが、ピアノとか音を出す楽器はほとんど手に入りませんでした。これも音楽、現地の先生が小さい音楽の授業を受けていなかったということもあって、もうドレミファソラシドも知りませんし、ここピースコーっていうアメリカの協力隊のようなものも入っていて、その人たちはABCで教えていたんです。で私たちはドレミで教えてしまったので、ベリーズの人たちはすごく頭が混乱してしまって「前はABCで習ったのにドレミって何？どっち？」っていわれてこれは問題なのかなって思いました。実際に音楽っていう教科がないので、ボランティアがきて教えてることがすごく多いんです。これはベリーズの教育省が音楽っていう教科書、授業を確立することが必要なのかなってすごく思いました。私は音楽が専門ではないので、音楽隊員さんがたまたまいたので訪問して一緒に授業をやらうこともしました。あとは簡単なリコーダーですね。リコーダーは日本から送ってもら

いました。

あとは成果としては同じように音楽の時間が一週間に一時間できるようになりました。子供たちが演奏する。今まで演奏したことがないので、とにかく触ったり、叩いたり、音を出したり、ってすることの楽しさに触れることができたのかなって思いました。課題としては現地教員は音楽というものを知らないんです。音楽は基礎知識が全くなく、本屋さんもないので勉強したくてもよくわからない、ただ最近インターネットがあるので、意欲的な人は調べて音楽を教えるってこともできますが、教える先生がない、あとは本当に道具の不足ですね

図工なんですけど、主な活動としては1年目2年目ともボランティアが、私が授業をしました。簡単なテキストブックを作って、こんなのあるといいんじゃないっていうことで教科書みたいなものも作っていきました。でも一回やっちゃうと、それ去年やったよねっていうことで新しいものを考えていかなきゃ行けないので、それは本当に現地の先生がやはり自分で考えていくっていう大切さも感じました。

あと夏休みの特別講習ということで壁画をやったり、絵画の工作教室なんかも開きました。でも実際にきたのは7、8人です。夏休みにやるからきてねって80人にいったのにみんな忘れていたり、行くよなんていいながら遊んでいたっていうことで、日本でも一緒なんですけど意欲的な子だけがきました。それでも何かを伝えられたかなと思います。これも図工っていう教科としてではなくて、今まではカードを作るとかそういうので終わってたんですけど、子供たちが絵を描くとか、小麦粘土をやったんですけど、小麦粉を水で溶いて、コネコネって触って、粘土の感触とかそういうのもできたのかな、感じられたのかなって思っています。あとは実際に物がなくて現地の教員の人にこのシーズンなんかいいものないかなっていうと「あ、あの木にこんな実みたいのが今なって、あれに色塗ったら授業になるんじゃない？」とか、そういう風と一緒に考えていきました。

課題、材料不足です。ほとんどといっていいくらい私のポケットマネーで紙を買ったりしていました。JICAに申請をするっていうこともできたんですけども、ちょっとした簡単な紙とかは私が近くの文房具屋さんで買ってしまっただけが多かったです。実際にこれでよかったのかなっていう反省はしています。なぜなら私が帰ったあとはじゃあそれは誰がやるのってことになるので、本当はお家の方とか、こういう資金をどこから持ってくるのかとか、学校で考えなきゃいけないのかなって感じています。ただこの2年間で図工をやる、結局どこにも資金がない、テストをやる紙もインクもないのになんで図工なんかやんなきゃいけないのっていうのが実情でした。だからせめて私がいる間だけでも感じられればということで、こういうやり方があるよっていう風にみせるだけでした。

あとは学校保健ということでこの絵に出ますけども、実際に活動の前に保健の先生か

ら染めだし液をもらっていてそれでやりました。健康診断をやりました。身長体重視力と、これもよかったです。

衛生指導ということで村の近くに日本人の NGO の人がたまたまきていて、村で一緒に貧困層の家庭訪問とかをして活動しました。保健室がなかったので、もの、救急セットとか具合が悪くなったら保健室にくるとか、そういう機能もありました。歯磨き指導。

あとは危険物マップということでこれもいただいた大妻女子の先生のテキストに載っていたんですけど、どこに危険なものがあるかということを探しました。

成果として子供たちの発育状況を理解することができた、あとはいろんな安全とかの意識も高まりました。

課題はやはり医療品の補充で、これは JICA からいただいたり自分のものだったり、本当は赤十字に行ってもらおうという形だったんですが、2 年間では継続的な活動ということで医療品をもらえるところまでは行きませんでした。

ということでその他の活動ということで、各分科会、自分は算数隊員だと思っていったので算数分科会に入って算数ドリルと升目ノートを作りました。あとは日本紹介や独立記念のパレードに参加したり、現地の人と交流して料理を作ったり伝統衣装も作って持って帰ってきて、今はそれを学校ですごく重宝しています。

日本の教育活動にどう活かしていくかということで、派遣中は異文化交流ということで作品、鯉のぼり等、日本で作ってもらって4年生、自分のクラスと一緒に交換をしました。こちらではしおりを作って送りました。あとは寄付の協力ということで学校の方に声をかけて頂いて、いろんなもの、鍵盤ハーモニカ、サッカーボール、リコーダーだとかを学校で集めて頂きました。それをうちの弟や母がきたときに持ってきてもらいました。なぜかって輸送代が高かったのです。

帰国後ということでクラスで授業をやりました。あとは教員間でこの間は出前授業ということで教員の先生にベリーズのことを知ってもらったり、異文化交流ということで先生たちにお伝えしました。日常生活の中でということで、先ほどいった外国籍の子たちがクラスにいますので、普段のときからその子たちを取り上げてその国のこと知りたいということで活かすようにしています。

最後に一番目、派遣前に何か持っていけるものを表にして集めた方が絶対にいいです。現職教員である強みをフルに活用ということで、私なんかは算数の大きい三角形の三角定規を持っていったりとか。あとで個人的に聞いてください。いろいろ持っていったんです。

二番目は派遣中はネタ集めということで、写真とかも普段の活動のイエーイとかっていうのじゃなくて、この写真必要かもというような、例えば食べ物の写真とか、あとこの場

所日本にはないかもとか文化とか食べ物とかがわかるもの授業に使えるものを集めて、で派遣中に準備した方がいいです。日本に帰ってきたら忙しくて、スライドつくって子供にこういうことをしようっていう時間がないので、時間がたっぷりある派遣中最後3ヶ月くらいに頭を日本国モードにかえて、自分のこういう授業をやろうとか、そういうことを考えておくといいのかなって思いました。自分も実際そうしようと思ったんですができませんでしたね。

最後に教員生活にとって絶対にプラスになります。何かつらいことがあっても最近ベリーズのことを思い出すとがんばろうと思いますいろいろなことに使えます。本当に人間としての深みが出ると思いますのでぜひ楽しんで2年間健康に気をつけてがんばってきてください。ご清聴ありがとうございました。

【質疑応答】

質問：いちばん持っておけばよかったと思ったものは

先生：日本のものを持っていっているつもりだったんですが、お箸とか、でも雑誌とかすごい興味があるんですよ、日本の子たちってどんな服着てるの？とか、子供たちの興味関心を引くこともできるので、日本の文化のものは意外と前の隊員さんが持ってきたものは結構あるんですよ。ドミトリーに剣玉があったりして、そういうものは結構そろっていたりするんですけど、高校生が読むような雑誌があるとよかったかなって思います。あとはスライムを作るもとをこっそり持って行って最後の授業でやったら、「何これ！楽しい」って感じになったのでまあ一発で終わっちゃうんですけど、何か日本でできるような科学とかそういう工夫、こういうものもあるんだっていうものも持っていくといいかなって思いました。

質問：もう一度、任地国に行くとしたらどんなことを準備していくかなとそこをぜひ聞きたいと思いました。

先生：もう一回行くとしたら、やはり日本の教科書とかも持っていったんですけど、英語で書いてあるものとかそういうのもっと下調べしておけばよかったなあというのがありました。日本のもの教科、お勉強、学習に関係するもので、たとえば何で行かれますか？

質問：小学校教員、理数系です。

先生：理数系だとしたら日本で行われている実験とか、あとは具体物が使われているものの事例集とかそういうものを持っていくとすごくいいと思います。